

和

第33号 (平成26年 夏号)



5月13日 クマモンが当院2階・小児外来に登場！
患者さんと楽しいひと時を過ごしました。

編集：大阪市立総合医療センター 地域医療推進委員会
(〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22)
<http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/>

大阪市立総合医療センター

3Hの理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。

Humane

人間味あふれる暖かな医療を実践する病院をめざす。

High-technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

～ 掲載内容 ～

- チーム医療の活動紹介 「緩和ケアチーム」
- 疾患解説シリーズ 「眼瞼下垂症」
- がんの診療について 「子宮体がん(子宮内膜がん)」
- 健康豆知識 「血管年齢」
- 大阪市立総合医療センター講演会のお知らせ

■ チーム医療の活動紹介『緩和ケアチーム』

緩和ケアとは病気によっておこる様々なつらい症状、気持ちのつらさを和らげる(緩和する)治療のことです。

がんと診断されたとき、または治療や生活を考える際に、不快な症状や痛みを抱えると、治療意欲を保つことも難しくなります。がん治療と並行して、早い時期からからだのつらい症状を緩和することは、治療を継続するうえでも重要な事です。緩和ケアチームは患者さんやご家族の生活に合わせた治療を選択したり、患者さんが自分らしく生きるためのお手伝いをします。

当院の緩和ケアチームは、緩和医療科医師、看護師が中心となって、精神科医師、薬剤師、臨床心理士、ソーシャルワーカーなど多職種と連携をとりながら活動しています。

活動内容として、

1. 相談依頼のあった患者さんのもとを毎日訪問し、主治医・病棟看護師と今後の治療方針を共有し、処方・ケアのアドバイスをを行っています。また、多職種によるチームカンファレンスを週1回行っています。
2. 緩和ケアチーム外来は、当院に通院中の患者さんを対象にがん治療を担当する診療科や地域の在宅医療従事者と連携し、診療や療養上のサポートを行っています。
3. 地域がん診療連携拠点病院である当院では、地域の医療者との緩和ケア地域連携カンファレンス及び診療に携わる医師を対象とした医師のための緩和ケア研修会をそれぞれ年に1回開催しています。緩和ケアチームは、この研修会の企画、運営を行い、緩和ケアの普及・教育に努めています。

緩和ケアチームは、患者さん・ご家族の生活を地域の医療関係者と共に支えていきたいと考えています。患者さん・ご家族で緩和ケアチームのサポートをご希望される方は、まず主治医もしくは看護師にご相談ください。



■ 疾患解説シリーズ

がんけんかすいしょう
眼瞼下垂症

大阪市立総合医療センター 小児形成外科・形成外科 山口 憲昭

◆眼瞼下垂症とは？

眼瞼下垂症とは、読んで字のごとく、まぶた（眼瞼）が下がっている（下垂）という病気です。この病気には、生まれた時から目が開きにくい**先天性眼瞼下垂症**や、大人になってから加齢の影響や、コンタクトレンズの影響で生じる**腱膜性眼瞼下垂症**、神経の病気が原因でおきる**神経性眼瞼下垂**などがあります。当院の小児形成外科・形成外科では、これらすべての病気に対応しておりますが、今回は、**腱膜性眼瞼下垂症**のお話をします。かつては、**老人性眼瞼下垂**といわれていたものですが、最近では、コンタクトレンズの普及やアレルギー疾患などのために、30代、40代でも生じる病気となっています。そのため、呼び名として、「老人性」というのは、不適切であるとして、**腱膜性眼瞼下垂症**と呼ばれるようになりました。では、その「**腱膜**」とはどのようなものを指すのでしょうか。

◆腱膜性眼瞼下垂の「腱膜」とは？

目を開ける仕組みは実は複雑なメカニズムで調整されています。目を開ける筋肉である「**眼瞼挙筋**」、その力を伝える「**挙筋腱膜**」、目の開き具合を監視している「**ミュラー筋**」、更に目を開けるのを手助けしているおでこの筋肉「**前頭筋**」、これらが複雑に機能して我々の目は開いています（図1）。

このメカニズムの中で一番緩みやすいもの、それが「**挙筋腱膜**」というわずか0.4mmの腱膜です。まさにティッシュペーパーのような組織が目を開ける力を伝える要となっています。

この膜が、重力（加齢）の影響や、コンタクトレンズの操作に伴う物理的な刺激によって伸びてしまったり、外れてしまったりするものが**腱膜性眼瞼下垂症**です（図2）。白内障の手術などの後に生じる眼瞼下垂もこの分類に入ります。

◆わかりにくい初期症状

私は目が開いているから大丈夫、と思われている方も多くおられますが、実は眼瞼下垂症の初期症状はわかりにくく、ご自身でも気づかれていない場合がほとんどです。たとえば、「**おでこのしわ**」です。目はしっかり開いている方でも、おでこのしわが深くなっている方は、すでに眼瞼下垂が生じ始めています。これは目を開ける補助をしている、おでこの筋肉（前頭筋）が無意識に緊張して、無理やり目を開けている状態です。そのため、おでこを手で抑えてしまうと目を開けることができなくなってしまいます。また、「**肩こり**」「**不眠**」「**頭痛**」といった、一見眼瞼下垂と関係のなさそうな症状も、眼瞼下垂の初期症状であることがあります。

◆腱膜性眼瞼下垂の治療法

このような早期の症状の方から、ほぼ目が開かなくなってしまった重度の眼瞼下垂の方まで、局所麻酔による手術で治療することができます。手術時間は、内容にもよりますが片眼で約1時間程度です。外来での手術、入院での手術いずれも対応が可能です。術後の腫れがありますが、2-3週間もすると引いてきます。二重のラインからの切開ですので、キズも比較的目立たず、日常生活が楽になった、10歳若返ったなどと喜んでいただける手術でもあります。ご本人、ご家族、お知り合いなどに「おでこのしわが深い方」「眼がなんとなく重たい」という方がおられれば、眼瞼下垂症の可能性があります。

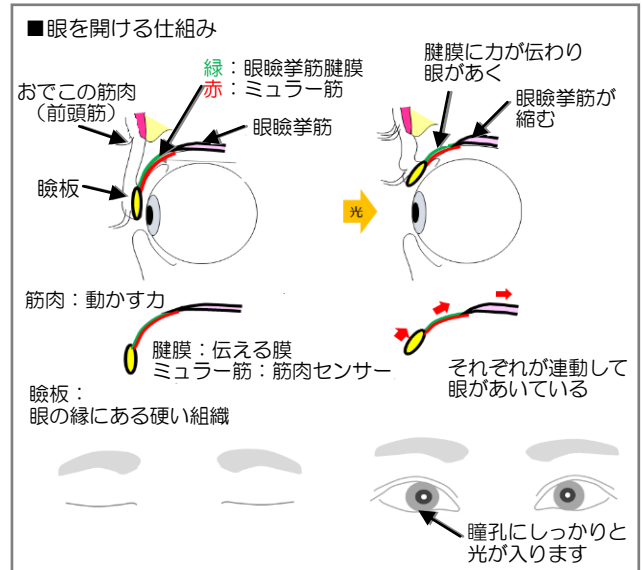


図1

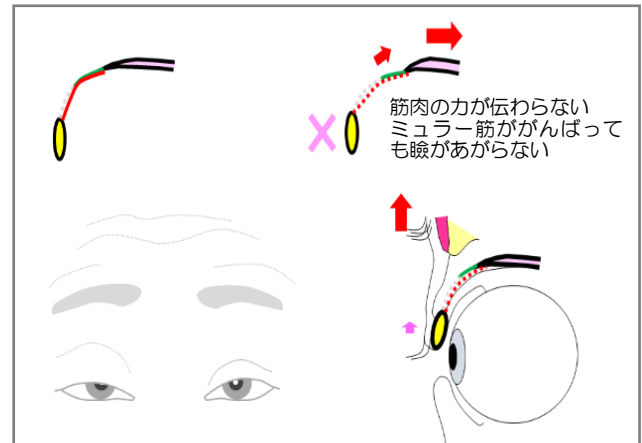


図2



当院を受診される場合は、「形成外科 眼瞼外来」宛ての紹介状をご持参の上、地域医療連絡室 TEL06-6929-3643 にてご予約をおとりください。

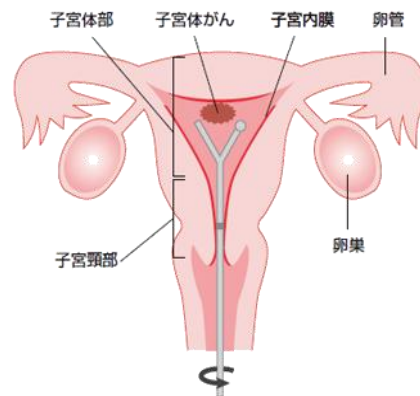
■ がんの診療について

子宮体がん（子宮内膜がん）

大阪市立総合医療センター 婦人科副部長 徳山 治

◆子宮体がん（子宮内膜がん）について

子宮は女性特有の臓器で、膀胱と直腸の間にあり、卵巣、卵管および膣とつながっています。子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんがあり、妊娠した際に赤ちゃんを育てる部分にできるがんが、子宮体がんです。このがんには、卵巣から分泌されるエストロゲンというホルモンが深く関係しています。肥満、月経不順、未経産（出産を経験していない）などが、子宮体がんになるリスクが高くなるとされています。そして生活様式の変化に伴い、子宮体がんは年々増加しています。



日本産科婦人科学会
ホームページより

◆子宮体がんの症状

初期の症状としては不正性器出血が多く、特に閉経後不正性器出血がおもな代表的な症状です。閉経前であっても、月経不順や乳がんの治療薬（タモキシフェン）を使用されている方は注意が必要です。痛みなどは初期には伴わないことが多いですが、子宮内腔に血液や膿がたまり、これが押し出されるときに生理痛のような痛みを伴うことがあります。

◆子宮体がんの検査法

子宮内膜細胞診が一般的な検査で、子宮内に細い棒を挿入し細胞を採取します。この検査により異常がある場合には、より精密な検査として子宮内膜生検（子宮内膜組織を採取して病理組織検査を行う）を行います。他に超音波検査（内膜の厚さを測る）やMRI検査などを行うこともあります。

◆子宮体がんの治療法

子宮体がんの治療の第一選択は手術療法となります。子宮全摘出術と両側付属器（卵巣・卵管）摘出術が行われます。がんの進み具合により骨盤から傍大動脈リンパ節摘出や大網部分切除が追加されます。手術後の病理学的検査でがんの進行期（ステージ）が決定し、術後治療（抗がん剤治療など）が必要かどうかを決定します。若年者で子宮温存を希望される場合は、ホルモン剤で治療を行うこともあります（ただし、がんのタイプや進行の程度によっては治療ができないことがあります）。



◆当院での手術療法について

手術療法は恥骨上から臍または臍上までの腹部縦切開で行われてきました。平成26年4月1日より早期子宮体がんに関し、腹腔鏡手術が保険収載されました。お臍を中心として、1cm前後の穴を5ヶ所切開し、カメラと手の代わりになる鉗子をお腹の中に挿入し画面を見ながら手術を行います。これにより術後の痛みや腸閉塞などが少なく、早期退院（術後6日から8日目）が可能となります。

◆おわりに

がんの治療に最も大切なことは、早期発見、早期治療です。上記の症状以外でも心配なことや相談したいことがあれば、是非ともお近くの婦人科を受診して下さい。

当センターが取り扱うがんの種類

肺がん・縦隔腫瘍／乳がん／胃がん／大腸がん／食道がん／肝がん／胆嚢がん・胆管がん／膵がん／前立腺がん／膀胱がん／腎がん／尿路がん／精巣がん／血液腫瘍（白血病、リンパ腫など）／子宮がん／卵巣がん／脳腫瘍／骨軟部腫瘍／頭頸部がん／小児がん／皮膚がん／原発不明がん／性腺外胚細胞腫瘍／眼腫瘍



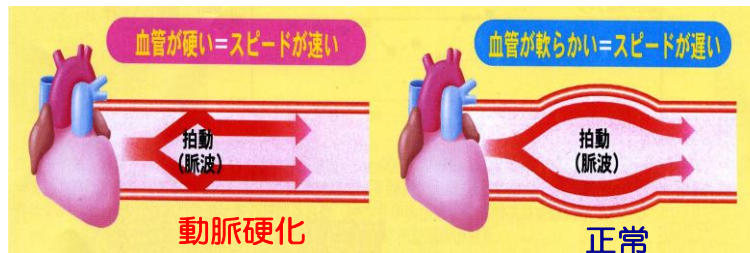
健康豆知識



『血管年齢』 お聞きになったことがありますか？ また、あなたの血管年齢をご存知ですか？

健康な人の血管は、柔らかく弾力性があります。日本人の死因の約3割を占める虚血性心疾患や脳出血などの臓器障害は血管の壁が厚くなって弾力性が失われたり、狭くなってしまいう「動脈硬化」が原因です。そのためにも、定期的に「血管」の検査を行うことが重要です。

血管年齢を知ることは、「血管(動脈)のつまり具合やしなやかさを知る」ことで「動脈硬化の程度を知る」といえます。動脈の血管壁はコレステロール等の脂質が沈着することで、血管が弾力を失い、硬化します。この血管の内腔が狭くなった状態や弾性が低下した様子を数値化して知ることができるのがABI(ankle brachial index の略)やPWV (Pulse Wave Velocity の略)で「脈波伝播速度」を調べる検査です。



大阪市立総合医療センター講演会のお知らせ

参加費・事前申込/不要

大阪市立総合医療センター市民医学講座

知っ得! なっ得! 医学情報

2014年 9月 6日 (土)
PM2:00~PM4:00



大阪市立総合医療センター さくらホール

- ① 骨粗鬆症によるせぼねの骨折
- ② 意外と気づかない眼瞼下垂の諸症状
- ③ うまくつきあうのがコツ!!
肝細胞がんの治療

大阪市立総合医療センター 糖尿病センター

市民公開糖尿病ゼミナール

2014年 11月 5日 (水)

AM9:30~PM2:00 (随時受付)

大阪市立総合医療センター さくらホール

